

◎令和5年度学校運営評価総括表（令和5年4月－令和6年3月）

●評価は、Ⅰ～Ⅸの各カテゴリーごとの項目を「5 良い 4 やや良い 3 普通 2 やや不十分 1 不十分」で採点し、その平均点として表したものである。

カテゴリー ・項目数	自己評価	学校評価委員会評価
Ⅰ 学校経営 (5項目)	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.8</p> <p>昨年同様、平均4.8と高い評価であった。</p> <p>令和5年度は、課長、主任が総入替となった新体制で始まったが、教職員全員で学校運営(30周年記念事業を含む)に取り組み、大きな支障なく進めることができた。</p> <p>「設置者の意思、指針」は明示されており、教職員の認識・理解度は高い。また、「教育理念・目的」についても教職員は理解しており共に高い評価となっている。</p> <p>「意思決定機関・システム」については、「定期的な会議により意見交換できていると思う」との意見もあれば「会議以外の場で変更されたことが周知されないことがある」などの意見もあり、変更事項等の周知には注意したい。</p> <p>「運営計画及び将来構想を策定するシステム」は明示されており、中期目標・単年度目標に基づき評価している。今年度は中期目標及び将来構想策定のタイムスケジュールを示した。</p> <p>「将来構想」については、「富士市立看護専門学校あり方検討会」を昨年度に引続き今年度も開催し、本校の今後のあり方について協議し意見をまとめ、市長へ最終報告を行った。</p> <p>本校の方向性としては、「今後も3年制を維持していく方向が妥当であり、富士看の特徴と強みをアピールしていく」とした。なお、今後の社会的情勢等の変化によっては再検討もあるとしている。</p> <p>「学校運営評価の実施」については、学校評価委員会にて評価し、教職員に周知しウェブサイトにて外部公表を行っている。委員会での意見を踏まえ運営の改善に取り組んでいく。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・昨年は、コロナが終息し学校を取り巻く環境が大きく変化した年で、大変であったと思う。</p> <p>・会議以外の場で変更されたことが周知されないことがあるとの意見があり、昨年も同様の意見があったが、当日の朝礼等で変更点を共有するという事で納得した。今後も改善をお願いしたい。</p> <p>・将来構想における、富士看の今後のあり方のまとめは、富士看の強みを確認し、富士看が行ってきたことの継続性など評価できる。</p> <p>・富士看は、教員と学生の距離が近く支えられており、学生は頑張れていると思う。</p>
Ⅱ 教育課程 (2項目)	<p>評価点【 4.9 】*昨年 4.9</p> <p>新カリキュラム2年目である(1・2年生が新カリキュラム、3年生が旧カリキュラムであり、新旧が混在している)。臨床判断能力等に必要な基礎的能力育成のため、1・2年生にはシミュレーション演習が多く組み込まれた。演習科目は複数の教員で担当しているため、実施状況について必要時共有し、次年度に向けたシラバスの見直し・検討を行った。また、次年度3年生の新規科目「文化と健康」の準備も行っている。</p> <p>新カリキュラムに向けて整えた教育目標と、それを踏ま</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>3年生の新科目、「文化と健康」は、茶道とアロマセラピーと手話という授業を行うと聞き、楽しみである。</p> <p>・ディプロマポリシーからカリキュラムルーブリックを作成し学生が自己評価を行うことは、評価できる。</p>

	<p>えたディプロマポリシーからカリキュラムルーブリックを作成し、1・2年生の修了時点で学生が自己評価を行う予定。その結果をカリキュラム評価検討会で検討し、教員会議等で共有し次年度に繋げていく。旧カリキュラムの3年生は、卒業生像に対する到達度評価、及び、看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標（厚労省）について自己評価を行った。新旧カリキュラムにおける教育目標・ディプロマポリシーの達成状況から、カリキュラム改善と再構成に向けた検討に繋がられるよう、カリキュラム評価計画に反映させていく。</p> <p>「教育目標を学生に説明する機会」については、1年生は入学時に行い、2・3年生は進級時に教務長がカリキュラムについて話をする際に、カリキュラムルーブリックを活用して説明を行う。</p>	
<p>Ⅲ 授業・実習 (9項目)</p>	<p>評価点【 4.8 】*昨年授業・学科4.8 実習4.9</p> <p>外部講師の授業内容がシラバスに沿ったものとなるように、今後も依頼・調整を続けていく。「学習の順序性を考慮した時間割」について、今年度は新旧カリキュラムの混在などから、演習・技術テストが同時期に集中し、また、外部講師による新しい演習との順序性が問題になるなど課題が多いため、次年度の教育計画立案時に改善に努めた。</p> <p>「授業内容や指導方法が学生のレベルに合う工夫」について、今年度は2・3年生が同日にエンカウンターグループ研修を行い、また、2年生の臨床判断演習Ⅱ後期と3年生の技術の総合評価を、同時期に同じ事例で行った。新カリキュラムで学んだ2年生の達成度について検討し次年度の改善に繋げる。1年生の臨床判断演習Ⅰでは、昨年度の見直しから改善が図られ、心理的安全性を確保した授業となっている。</p> <p>「教員は未修得科目の分析をしている」については、未修得までいかないが再試験者の多い科目があるため、学科試験の実施時期について次年度に向けて検討し改善した。</p> <p>「実習施設との協力体制」については、指導者と教員の意見交換は施設側の都合で常にはできていないが、共通認識はできるように努めている。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的安全性を確保した授業として、練習をしてから評価を行うことは、学生のプレッシャーやストレスの軽減を図ることができ良い試みと思う。 ・再試験の多い科目については、実施時期を分散することで、学生への負担の配慮になると評価できる。
<p>Ⅳ 入学 (2項目)</p>	<p>評価点【 4.9 】*昨年4.8</p> <p>昨年同様、平均4.9と高い評価であった。</p> <p>「入学者選抜」については、校内入試担当者会にて協議し、入学選考委員会にて審議し、運営委員会にて合格者を決定している。入学試験に関する実施方法や判定方法の明文化はなされており、公平性は確保されているが、定期的に入学者選抜の再確認・見直しは必要である。なお、社会情勢、地域情勢を踏まえた取り組みとして、令和2年度から指定校推薦制度に加え、公募型推薦制度を導入しており、今年度は公募の受験条件を拡大し、高校訪問の範囲も広げた。公募型推薦制度の応募数は昨年度より増えてお</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な学校運営を続けるために学生を確保することは、大事なことと思う。現状維持できていることは、評価できる。既卒の確保が重要と思う。 ・富士・富士宮に住所があれば、県外の高校からでも受験できるのは良いことである。今後も学生の確保にはがんばって頂きたい。

	<p>り、制度が定着してきている。今後も、社会情勢の変化に併せた入試制度の検討を継続していく。</p> <p>「入学希望者の開拓」については、オープンキャンパスの開催、学校説明会への参加、ウェブサイト・SNSの活用などPRに取り組んでいる。しかしながら、入学希望者は減少傾向にあり少子化や大学志向を踏まえ、学生確保対策担当者会で原因分析を行い、当校の特徴を積極的に発信するなど学生確保に努めたい。</p>	
V 学生への支援 (2項目)	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.7</p> <p>昨年平均 4.7 から 4.8 へ上昇し、高評価であった。</p> <p>「経済的・精神的側面からの支援」、「身体的側面からの支援」、共に高評価であり、学習継続への支援体制は効果的に活用されている。今後は、C-ラーニング等デジタルツールを活用した支援体制を整備し充実を図りたい。</p> <p>「学生の課外活動」は、新型コロナウイルス感染症の収束により学生の行動制限は無くなったが、学生からの活動要望は無く、課外活動が行われなかったため評価は低かった。今後、学生からの活動要望があれば全力で支援していく。</p> <p>「学習困難な学生の支援」については、国家試験対策時など補習が必要な学生に個別指導を行うなど支援を行っている。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・課外活動の再開については、コロナで制限されていた経緯もあり、ある程度は活動等を提示しないと難しいかもしれない。</p> <p>・C-ラーニングの中の学生支援機能は、教員に気軽に連絡、相談できるツールで活用できており、今後もデジタルツールを活用して頂きたい。</p>
VI 卒業・就職・進学 (5項目)	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.8</p> <p>昨年同様、平均 4.8 と高い評価であった。</p> <p>「進路選択への支援」については、積極的な進路指導や多岐に渡る幅広い進路選択支援等、手厚く取り組んでおり、評価は高い。</p> <p>課題である「卒業後のフォロー」については、卒業生から相談があれば適宜対応している。また、令和3年度末からウェブサイトを活用した同窓会名簿管理が稼働しており、「30周年記念事業」の案内をきっかけに登録者数は増加している。今後もウェブサイト等で卒業生に更新をお願いしていく。</p> <p>「卒業後の看護実践能力の到達度評価・指導」については、新カリキュラムによる教育を受けた学生が、令和7年から卒業するため検討していきたい。</p> <p>国家試験の支援体制は、教員が精力的に取り組み、効果的な指導がなされている。今後も、学校全体できめ細かな支援を継続していく。</p> <p>卒業生への「就職支援と中途退職者の就職相談」は、適宜対応している。また、卒業1年生を招く「ホームカミングデー」を今年度も開催しており、来年度は、卒業生が参加しやすい日を考慮し紫苑祭(学生祭)と同一日を開催予定としている。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・概ね評価できる。</p> <p>・同窓会名簿の登録者については、私も卒業生に会えば登録をお願いしている。学生は卒業時に登録することになるため、今後は増えていくことと思う。</p>
VII 管理・財政・施設整備 (7項目)	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.8</p> <p>昨年度同様、平均 4.8 と高評価であった。</p> <p>「適正な予算の執行、進行管理」、「学生や教職員の人権・個人情報の保護」については、情報の共有、周知がな</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・災害用の行動マニュアルはあるが、不審者用の行動マニュアルは現状ないとのこと、不審者用の</p>

	<p>されており、高い評価であった。</p> <p>「災害などの非常時の危機管理体制」については、地震発生時フローチャート、危機管理マニュアルの見直しや確認を行い情報の共有を図っている。総合防災訓練は、毎年4月に教職員と学生で実施しており、本年は放水訓練等を行った。</p> <p>「不審者対応」については、「事務所に立ち寄る者への監視体制はあるが、不意な侵入者への対処策は十分ではない」との意見がある。対応については、施設の施錠管理を徹底し侵入されにくい施設にする位しか現状対応策は無いが、もしもの事態に備え、避難経路の確認や、適切な対処・判断ができるよう行動マニュアルを作成するなど不審者に備えたい。</p> <p>なお、交通安全意識を高めるための交通安全教室や、消費者被害を未然に防ぐための消費者啓発講座は、継続し実施する。</p>	<p>行動マニュアルを今後作成することは評価できる。</p> <p>・防犯カメラは、抑止効果があると思うので、ダミーカメラも含め検討していただきたい。</p>
<p>Ⅷ 教職員の育成 (5項目)</p>	<p>評価点【 4.7 】*昨年 4.4</p> <p>「職場内研修」について、今年度はファシリテーションをテーマとした看護教育研修会を行った。「教員の専門性を高める体制」について、シミュレーション演習等は準備・片付けに多くの時間が必要であり、その確保について検討が必要と感じる。また、今年度は専任教員養成講習会に教員1名が参加し、他校の看護教育実習生2名の受け入れを行った。「教員の研究活動」について、今年度は教員3名が学会での研究発表を行った。多忙な中ではあるが、新カリキュラムの授業・演習の評価を行うため、授業参観・研究授業・公開授業とその意見交換を行う体制(様式)があるので再周知し活用していく。</p>	<p>評価点【 4.8 】</p> <p>・研究を複数の教員が行ったことは評価できる。自発的に、ここ数年コンスタントに取り組まれているので、よい流れだと思う。</p> <p>・一部の教員の時間外が多いようなので、業務改善を期待したい。</p>
<p>Ⅸ 地域社会への貢献 (1項目)</p>	<p>評価点【 4.7 】*昨年 4.7</p> <p>昨年度と同様、平均4.7と高い評価であった。</p> <p>「地域社会への貢献」については、新型コロナウイルス感染症の収束により、来場者に制限をかけない紫苑祭(学生祭)が開催され、久しぶりに多くの地域住民が来場し盛況のうちに終了した。</p> <p>「学生のボランティア活動」は、7月の富士まつり(ゴミバスターズ2)、8月の市主催のキッズジョブ、10月の富士北地区「北翔まつり」、12月には富士山女子駅伝にボランティアなど積極的に参加し、地域社会への貢献が行っていた。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・学生のボランティア活動については、今後も積極的に送り出してほしいと思う。</p>

◆学校評価委員会

委員長 富士市立看護専門学校 校長
 委員 富士市保健部長
 富士市立看護専門学校 副校長
 元富士市立看護専門学校 副校長
 富士市立看護専門学校同窓会長
 保護者代表